Jacquemin, Raphaël

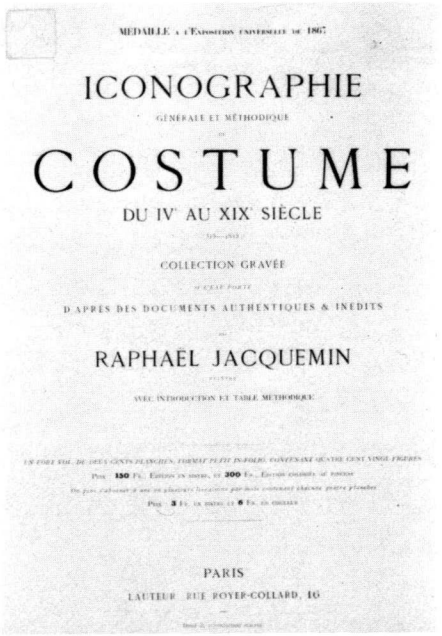
Iconographie générale et méthodique du costume du IVe au XIXe siècle (315 −1815) collection gravée à l'eau forte d'après des documents authentiques & inédits.

Paris, L'auteur, [1863−1869]（文献番号３−14）

Hiler p.473　Colas 1528−31　Lipperheide 337

ジャクマン著

４世紀から19世紀（315年から1815年）までの服装の全般的系統的参考図鑑、未発表の確かな遺物に基づく腐飾銅版図集


MEDAILLE A L'EXPOSITION UNIVERSELLE DE 1867

ICONOGRAPHIE

GÉNÉRALE ET MÉTHODIQUE

DU

COSTUME

DU IVe AU XIXe SIÈCLE

COLLECTION GRAVÉE

D'APRÈS DES DOCUMENTS AUTHENTIQUES & INÉDITS

PAR

RAPHAËL JACQUEMIN

AVEC INTRODUCTION ET TABLE MÉTHODIQUE

PARIS

L'AUTEUR RUE ROYER-COLLARD, 16

恐らくは、最も初期に属する200枚の銅版手彩色からなるフォリオ版の服飾図集で、1867年の万国博覧会で賞を受けたことが記されている。図は単純・簡潔ながら描写は忠実で実証的である点に特徴があり、その後の服飾史研究にも大きな刺激を与えた。というのも、ファッション・プレートは別として、歴史服の彩色を施した組織立った図集は、それまではほとんど皆無だったからで、わずかにジャクマンより数年前の1860年にパリで刊行されたメルキュリとボナール共著（Mercuri & Bonnard）の「13・14及び15世紀の服装史」（文献番号３−81）という全２巻からなる中世服の図集がある程度だった。もっとも、ジャクマンの図集と平行してドイツのクレッチマーとロールバッハ（Kretschmer & Rohrbach）による「諸国民の服装」（文献番号７−３）という色刷り石版画による見事な図集が1864年にライプチヒで刊行されたのは、特筆してよかろう。この本は1882年にも再刊されており、クレッチマーが図を、ロールバッハが解説を担当している。

再刊といえば、このジャクマンの著作も本書よりは、むしろその10年ばかりのちの刊本――それは12世紀までで終っているが――がよく出回っているので、この方がよく知られている。すなわち「４世紀から12世紀までの西洋の市民服・宗教服・武装」（1879）（文献番号３−88）で、これには解説も付されているが、中世以降については未刊のままに終った点が惜しまれる。

著者は画家であると同時に腐飾銅版画家。1821年パリに生まれ、1881年に同地で没している。モンダンに師事し、のちイタリアのアカデミーに学んだ。1851年のサロンでデビューしている。

本書では、図版１～６までを古代に、図版７～57までの51枚を中世に、図版58～183までの126枚を近代に、そして図版184～200までの17枚を東洋に当ているが、書誌によれば1872年ごろに図版201～280までの80枚に及ぶ補遺を刊行しており、1880年にパリのナドー社から発行された第２版、及び1910年ごろに同じくパリのギャスタンジェ社から発行された第３版には、この補遺も含まれている由であるが、筆者はまだ閲覧の機を得ていない。

図・左は扉、図・中は図版45の「若いしゃれ者」1480年、トゥラン大学図書館蔵の写本から。図・右は図版134，1780年，ヴィレ(子)作の版画による「プティ・ウォーホール」の中の〝娼婦〟